

仲間の力を合わせ安心社会を築こう

～働く人や地域の頼りになる存在へ～

取り巻く環境

世界情勢は、ロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、パレスチナ・ガザ地区を中心に中東全域への拡大が懸念されるほか、北朝鮮や台湾問題など東アジアにおける緊張も高まるなど、依然として平和や人権が脅かされている。2025年は第二次世界大戦の終結から80年の節目となる。

日本では、多くの国民が物価高で厳しい生活を余儀なくされている一方で、コロナ禍の終息による経済活動は本格化し、広い範囲の業種・職業で人手不足が生じている。また働く人への被害が深刻であり社会問題化するカスタマーハラスメントを含む、ハラスメント対策の強化が求められている。更には、歯止めがかからない人口減

少・少子高齢化、貧困や格差の拡大が進み、「働くことを軸とする安心社会」の実現には、将来不安払しょくに向けた抜本的な対策が必要である。加えて「令和6年能登半島地震」をはじめとする被災地・被災者に寄り添った支援の継続、南海トラフ巨大地震への備え、頻発する大規模災害への対策が急務である。

政治においては、山積する構造的な課題の解決に着手されないまま自民党派閥の裏金問題が明るみになり、自民党のみならず政治全体に対する国民の不信感が高まっている。こうした中、国のあり方・進路を委ねる参議院選挙が来年7月に行われる。

2025年度活動の補強

中間年度の大会で補強を行う2025年度活動方針は、前年度同様の活動の継続を基本におきつつ、継続する取り組みには創意工夫を、新しい取り組みには働く人や地域に共

感されることを反映し、実行・実践にこだわり活動を推進する。あわせて、各種活動については、効率化や見直しなど必要な改善をはかっていく。

補強する具体的な活動

〈すべての働く者を「まもる」取り組み〉

- 仲間づくり推進室を中心に、構成組織や地域協議会が計画した活動に基づき行動し、仲間を増やす取り組みを前進させる。
- 仲間との連携では、構成組織への訪問活動等を通じて課題解決をはかる。
- 地域課題の解決に向けて、全11地域協議会において新たな「地域に根差した顔の見える運動」を具体化し実行に移す。

〈安心して暮らせる社会・職場を「創り出す」取り組み〉

- 国政選挙では、働く者・生活者の立場に立つ政治勢力を最大化し、緊張感ある政治を取り戻すとともに、わたしたちの目指す社会の実現に向けて、推薦候補者全員の当選を目指し連合愛知一丸となって取り組む。
- ジェンダー平等推進計画「ACTION PLAN AICHI-

IV」フェーズ2の達成に向けて取り組みを加速させるべく、スタート年度にあたり推進計画の周知・理解浸透に取り組む。

- 2025春季生活闘争では、経済も賃金も物価も安定的に上昇するステージへの転換を確実なものとするため、中小企業の賃上げ環境の整備として、道半ばである労務費を含む価格転嫁の実現に向けて粘り強く進めていく。

〈働く仲間を地域で「つなぐ」取り組み〉

- 連合愛知助け合い運動の充実として、児童養護施設を卒業して就職した子どもたちの継続支援を検討し順次実施していく。
- 2つの「ここあファーム」の運営を軌道に乗せるとともに、地域行政やNPO、福祉団体との関係づくり、連携による活動を具体的に検討していく。

〈社会的発信力の強化と連合運動を支える取り組み〉

- 連合愛知ホームページをリニューアルし、情報発信力の強化に努める。

〈組織・財政検討委員会答申への対応〉

- 2026年1月からの中央会費制度への移行に向けて、(新)地方交付金への変更に伴う規約の見直しや財務・会計業務の確認を行うとともに、構成組織への周知をはかる。

〈2024～2025年活動方針〉

